

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際言語文化学部	英語英文学科 (※1)		31	/	35	66	13	
	英語英文学科 (※2)		29		35	64	13	
	国際日本文化学科 (※1)		31		27	58	13	
	国際日本文化学科 (※2)		29		27	56	13	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (※3)		31	5	118	154	13	
	心理学科				94	128	13	
	こども教育学科				164	200	13	
(備考) ※1=平成29年度以後入学者 ※2=平成28年度以前入学者 ※3=令和3年度に福祉生活デザイン学科から生活環境学科に名称変更								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学Webサイトの下記のページにて公表している。 http://ann.notredame.ac.jp/instsec/jitsumuka.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 http://hojin.notredame.ac.jp/summary/yakuin202105.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常 勤	現学校法人理事長	2020. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	理事長補佐 経営計画策定
非常勤	現信用金庫理事長	2020. 12. 24 ～ 2023. 12. 23	組織運営体制への チェック機能
常 勤	現信用金庫顧問	2021. 6. 1 ～ 2024. 5. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現私立大学教授	2020. 12. 24 ～ 2023. 12. 23	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現修道士	2020. 6. 1 ～ 2023. 5. 31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元企業会長	2020. 4. 1 ～ 2023. 3. 31	財務担当
非常勤	現私立大学教授	2020. 12. 24 ～ 2023. 12. 23	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では授業計画書(シラバス)を全学部統一様式で作成し、インターネット等により公表している。スマートフォンでの閲覧にも対応し、学習支援システムとも連携させて、学生が科目選択時だけでなく授業準備学習等にも活用しやすいように改善を図っている。</p> <p>シラバスは、例年概ね以下の過程を経て作成・公表している。</p> <p>10月下旬 シラバス作成に関する説明会の開催</p> <p>11月中旬 担当教員にシラバス入稿依頼</p> <p>12月中旬 教務委員会におけるシラバスチェック基準の打ち合わせ</p> <p>12月下旬～翌年1月末 シラバスチェック(指摘・修正の期間を含む。)</p> <p>2月 シラバス修正・確認作業完了</p> <p>3月中旬 インターネット上で公表</p> <p>各担当教員のシラバス作成に際しては、「シラバスの入稿について」「本学の基本教育理念の組み立てについて」など作成のためのガイドとなる資料を配付するほか、授業改善の一環として説明会を開催し、シラバス作成の考え方や前年度からの変更点・留意点等への理解を深めることとしている。</p> <p>入稿完了後には、教務委員会の委員(各学科等選出の教員、教育支援部長等の職員)により、当該科目の位置づけがカリキュラム・ポリシーに沿ったものであるか等について「シラバスチェック」を行う。</p> <p>全学部統一様式によるシラバスには、授業科目に関する情報として①講義コード(コースナンバー)②科目名③ND6(ディプロマ・ポリシーに定める6つの力のうち当該科目に最も関連する力を記載。項目4参照)④授業以外に必要な標準学修時間⑤担当教員名⑥科目区分⑦配当学年⑧開講学期⑨単位⑩備考・前提科目⑪曜日講時を記載した上で、担当教員が記載する事項として、以下の項目を設けている(括弧内は記載にあたって留意を求めている点)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の教育目標【必須項目】 (ディプロマ・ポリシーとの関連がわかるよう、学生が到達すべき水準等を具体的に測定可能な行動等で記述) ・教育・学習の個別課題【必須項目】 (科目の教育目標に到達するために授業の中で取り上げる課題などを、授業終了後のイメージが具体的なものとなるように箇条書きで記述) ・ルーブリック【任意項目】 (受講している科目でどのような力がつくかを学生が理解し、主体的に考えて学ぶように方向づけるため、学生が目標に向かって積極的に取り組むことを後押しすることを重視)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画【必須項目】 (同内容が連続している場合や各回の具体的な内容が不確定である場合も、原則として異なるトピックや観点等を含めて各回の授業内容を記載。オムニバス形式等、複数教員担当の場合は各回の担当者名も記載) ・教育・学習の方法【必須項目】 (授業の実施方法(講義・演習・発表・ディスカッション・グループワーク等)、学習の方法(授業で意識すべきことなど)、授業で使用する教材などについて具体的に示し、試験・レポート等に対するフィードバックについても記載) ・準備学習の具体的な方法【必須項目】 (予習・復習の方法などを具体的に指示) ・準備学習に必要な標準時間数(合計)【必須項目】 (授業以外に必要な予習・復習等に要する時間の合計を標準時間数以内で記載) ・評価方法・評価基準【必須項目】 (教育目標を基に成績評価の基準を適切に設定し、その内容を具体的に明示) ・担当教員の実務経験 (担当科目の内容に関連した実務経験であることが読み取れるように記載) ・定期試験またはそれに替わるレポートの有無【必須項目】 ・留意事項(受講条件等) <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト／参考文献／参考 URL 	
授業計画書の公表方法	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://ann.notredame.ac.jp/instsec/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の成績評価及び単位の授与については、学則(規則・規程等名称の大学名省略。以下同じ。)及び履修規程等の規定に基づき、厳格かつ適正に行っている。 本学では「授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験の上、単位を与える」(学則第 14 条)ことを原則とし、試験は「定期試験及び定期試験以外の方法(授業時に行う平常試験、レポートその他第 10 条に定める評価方法)」(履修規程第 15 条)により行っている。 具体の成績評価の方法は「筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度等を基に行」(履修規程第 10 条第 1 項)い、100 点満点で 60 点以上を合格とする(学則第 14 条)。成績評価の基準は下表のとおりである(履修規程第 10 条第 3 項・第 4 項)。	

成績評点等	評価	評価 (英語表記)
90点以上	秀	A
80点～89点	優	B
70点～79点	良	C
60点～69点	可	D
本学学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により、本学以外での学修を認定した授業科目	認	T
59点以下	不可	F
評価なし (試験欠席、出席時数不足等)	/	
本学学則第14条第2項ただし書きの規定により100点を満点とする評価が難しいものとして別に定める授業科目 (合格の場合)	合格	P

これらの規定を踏まえ、個々の授業科目においては、シラバスに記載必須として「評価方法・評価基準」の項目を設け、当該授業科目の教育目標を基に適切に設定した基準を具体的に明示することとしている (項目1参照)。記載にあたっては、「総合的に評価する」などの記載は原則として不可とし、「定期試験 (50%)、小テスト・レポート (30%)、授業参加度 (20%)」のように明確化している。また、単に出席したことだけをもって評価する「出席点」は認めていない。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の客観的な指標として、GPAを以下の方法で算出 (小数点以下第3位を切捨て) し (履修規程第11条)、インターネット等により公開するほか、学生便覧等に記載して、直接ガイダンス等でも説明している。

$$(4 \times \text{「秀」の修得単位数} + 3 \times \text{「優」の修得単位数} + 2 \times \text{「良」の修得単位数} + 1 \times \text{「可」の修得単位数}) \div (\text{総履修登録単位数})$$

「認」「合格」の評価並びに卒業のために必要な単位とならない授業科目、学期途中で履修中止を届出た授業科目の評価はGPAの対象としない。再履修した場合は最新の成績だけを対象とする。

なお、成績評価を適切に実施するための取組として、合格者の平均点を原則として「72点～78点」の範囲とすること、各授業科目の成績分布状況及びGPAを閲覧可とすることを、全学で申合せている (平成26年8月26日教務委員会「成績評価の厳格化について」)。

客観的な指標の算出方法の公表方法	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_2021_06_1_1.pdf
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の6つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

令和3年度入学者

【全学部分】

- DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。
- DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけるとともに、それらを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力をひとつおりに身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。
- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。
- DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。（専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。）

【国際言語文化学部 英語英文学科】

- DP1. キリスト教精神に基づく共感能力と幅広い教養に支えられた女性としての自立心を備え、国際社会に貢献し、その発展に寄与できる力を身につけている。
- DP2. 英語圏の文学、文化、言語学、コミュニケーション学、英語教育学についての幅広い知識や、異文化理解能力を身につけており、それらを基に思考力、批判能力を涵養する素地を兼ね備えている。
- DP3. 様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。グローバル化社会で共生するための、異文化理解に基づいた社会的言語運用能力を身につけている。
- DP4. 現代社会、特に国際社会において直面する多種多様な情報問題、課題に対して、多角的かつ複眼的な思考に基づき、適切な情報選択、批判的分析、論理的かつ効果的な意思決定を行う力を身につけている。
- DP5. 価値観が交錯する国際社会で他文化の人々と協働するにあたり、ステレオタイプや偏見、自己文化中心主義といった自己傾向を理解し、これを克服して、多文化コミュニティ（共同体）形成に貢献できる力を身につけている。
- DP6. 英語圏を中心とする国際社会における文化、社会、言語、コミュニケーションについて、その背景にある仕組みや問題を洞察することができ、これを分析・解決するための専門知識と方法論を身につけている。また、分析・解決策を社会やコミュニティに対して貢献できる形で発信する力を身につけている。

【国際言語文化学部 国際日本文化学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を備え、自立した女性とし

て社会に貢献できる資質を身につけている。

- DP2. 「日本語日本文化」「国際文化」の2領域にわたる基礎知識、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる技能を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題に人文学的観点から対応するための日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人文学分野の情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身につけている。
- DP5. 書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を土台に、さまざまな他者と共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 学習経験と専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み新たな価値を創造する能力、諸問題に対して適切に判断・対処する力を身につけている。

【現代人間学部 生活環境学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、人の生活を生活環境の側面からとらえ、よりよい暮らしの創造や地域社会の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 生活科学、社会福祉学および関連領域に関する基礎知識、および衣食住、家族・生活経営、福祉に関する幅広い知識を身につけ、人の生活を生活環境の側面からとらえ、暮らしにかかわる多様な課題を理解できる力を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を一人ひとりの暮らしの視点から解決へと導くために、人の生活を生活環境の側面からとらえ、相手の立場を考えながら、場に応じたコミュニケーションができる力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人の生活を生活環境の側面からとらえ、生活のあり方や生活における課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけ、衣食住、家族・生活経営、福祉に関する専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
- DP5. 人の生活を生活環境の側面からとらえ、一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、他者に共感でき、多様な課題を抱える人に寄り添う態度を身につけ、他者と協働しながら関わる支援者としての技術を身につけている。
- DP6. 人の生活を生活環境の側面からとらえ、地域における生活課題を解決するための情報収集ができ、必要に応じて新たな価値の創造に取り組み、その成果を適切に発信する力を身につけている。

【現代人間学部 心理学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 心理学およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、病児・者、障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り、理解を深め、協働することができる実践力を身につけている。
- DP6. 専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果が

ら新たな価値を創造する力、および心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部 こども教育学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに、教育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としないこどもや家庭に対して、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよいこどもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に可否を判定している。

2021年度入学生の卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第5条）。

【令和3年度以降入学者】

- 国際言語文化学部 英語英文学科
 - 共通教育科目 20単位以上
 - 専門教育科目 88単位以上
 - 学際教育科目 0～16単位
- 国際言語文化学部 国際日本文化学科
 - 共通教育科目 26単位以上
 - 専門教育科目 72単位以上
 - 学際教育科目 0～26単位
- 現代人間学部 生活環境学科
 - 共通教育科目 24単位以上
 - 学科横断プロジェクト型科目 0～6単位
 - 専門教育科目 84単位以上
 - 学際教育科目 0～16単位
- 現代人間学部 心理学科
 - 共通教育科目 24単位以上
 - 学科横断プロジェクト型科目 0～6単位
 - 専門教育科目 84単位以上
 - 学際教育科目 0～16単位
- 現代人間学部 こども教育学科

	共通教育科目 24 単位以上 学科横断プロジェクト型科目 0～6 単位 専門教育科目 84 単位以上 学際教育科目 0～16 単位
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学 Web サイトの下記のページにて各学科ごとの 3 つのポリシーをまとめて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_2021_06_1_2.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学 web サイトの下記のページにて公表している http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/r02fp.pdf
収支計算書又は損益計算書	大学 web サイトの下記のページにて公表している http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/r02fp.pdf
財産目録	大学 web サイトの下記のページにて公表している http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/r02fp.pdf
事業報告書	大学 web サイトの下記のページにて公表している http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/r02fp.pdf
監事による監査報告(書)	大学 web サイトの下記のページにて公表している http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/r02fp.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:「〇〇年度事業計画書」対象年度:平成26年度~2021(令和3)年度)
公表方法:大学 Web サイトの下記のページにて毎年公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/financial.html#sec_02
中長期計画(名称:「京都ノートルダム女子大学中期目標・中期計画」 対象年度:2020年度~2024年度)
公表方法:大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/financial/2020-tyukikeikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/self_accreditation.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/accreditation.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際言語文化学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html ）
（概要） 本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。 国際言語文化学部は、言語・歴史・文学・思想・芸術・倫理・宗教など、人々の生活形成の様式と内容の総体である「文化」という視点から、「人間」存在の意味やその営為のありさまを学際的に学び、文化の多様性を理解し、異文化に対する寛容な国際感覚を身につけ、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：大学 web サイトの以下のページにて公表している https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html ）
（概要） 本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成 29 年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。 ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。 本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。 ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。
【全学部分】 DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。 DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけるとともに、それらを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。 DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力をひととおり身につけている。 DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。 DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。 DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。（専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。）

【国際言語文化学部 英語英文学科】

- DP1. キリスト教精神に基づく共感能力と幅広い教養に支えられた女性としての自立心を備え、国際社会に貢献し、その発展に寄与できる力を身につけている。
- DP2. 英語圏の文学、文化、言語学、コミュニケーション学、英語教育学についての幅広い知識や、異文化理解能力を身につけており、それらを基に思考力、批判能力を涵養する素地を兼ね備えている。
- DP3. 様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）でできる言語能力を身につけている。グローバル化社会で共生するための、異文化理解に基づいた社会的言語運用能力を身につけている。
- DP4. 現代社会、特に国際社会において直面する多種多様な情報問題、課題に対して、多角的かつ複眼的な思考に基づき、適切な情報選択、批判的分析、論理的かつ効果的な意思決定を行う力を身につけている。
- DP5. 価値観が交錯する国際社会で他文化の人々と協働するにあたり、ステレオタイプや偏見、自己文化中心主義といった自己傾向を理解し、これを克服して、多文化コミュニティ（共同体）形成に貢献できる力を身につけている。
- DP6. 英語圏を中心とする国際社会における文化、社会、言語、コミュニケーションについて、その背景にある仕組みや問題を洞察することができ、これを分析・解決するための専門知識と方法論を身につけている。また、分析・解決策を社会やコミュニティに対して貢献できる形で発信する力を身につけている。

【国際言語文化学部 国際日本文化学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を備え、自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
- DP2. 「日本語日本文化」「国際文化」の2領域にわたる基礎知識、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる技能を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題に人文学的観点から対応するための日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人文学分野の情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身につけている。
- DP5. 書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を土台に、さまざまな他者と共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 学習経験と専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み新たな価値を創造する能力、諸問題に対して適切に判断・対処する力を身につけている。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に可否を判定している。

2021年度入学生の卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第5条）。

【令和3年度以降入学者】

- 国際言語文化学部 英語英文学科
 - 共通教育科目 20単位以上
 - 専門教育科目 88単位以上

<p>学際教育科目 0～16 単位</p> <p>○ 国際言語文化学部 国際日本文化学科 共通教育科目 26 単位以上 専門教育科目 72 単位以上 学際教育科目 0～26 単位</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： 大学 web サイトの以下のページにて公表している https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育課程編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー) は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している 6 つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、講義・演習・実習等のどの方法で、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法： 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/jukensei/admission/admissionpolisy/、その他、入学試験ガイド、入学試験要項、学生便覧などに記載している。)</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、全学及び各学部学科において入学者受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー) を設定し、「ND6」に沿って入学者に期待する能力と選考方法、入学までに求める学習経験について明記している。アドミッション・ポリシーの具体的な内容は、各学科で以下のとおり記述している。</p> <p>【国際言語文化学部 英語英文学科】 [入学者に求める能力]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分を育てる力 [期待する能力] 英語という言語に関心があり、同時に英語圏の 文化、歴史、社会、コミュニケーションに幅広く関心を持っている。 [選考方法] 面接、自己記入書 (志望理由書、自己アピール)、調査書 2. 知識・理解力 [期待する能力] 英語圏の文化や文学に関心があり、高校卒業程度の教科書記載内容の知識を持っている。 [選考方法] 調査書、自己記入書 (志望理由書、自己アピール)、学力試験、レポート 3. 言語力 [期待する能力] 高校卒業程度の英語力を持ち、読む、書く、話す、聞く、の英語における 4 分野の向上に努めることができる。 [選考方法] 面接、調査書、学力試験、資格検定、英作文 4. 思考・解決力 [期待する能力] 英語という言語・英語圏の文化・社会に関するさまざまな課題について関心があり、それらを解決・探究するための情報収集力を一定レベル 習得している。 [選考方法] 面接、自己記入書 (志望理由書、自己アピール)、調査書、学力試験、レポート 5. 共生・協働する力 [期待する能力] 母語のみならず英語で他者とコミュニケーションをとり、協力・協

働するよう努めることができる。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書

6. 創造・発信力

〔期待する能力〕英語という言葉、英語圏の文化、歴史、社会、コミュニケーション、教育に関して自分の意見を持ち、何らかの媒体を用いて、社会に発信することに関心がある。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書

〔入学までに求める学習経験〕

国語、英語の学習を通じ、読む、書く、話す、聞くといった言語4技能の学習と実践をしっかり積むとともに、対人場面、社会場面でのコミュニケーション力を磨くことが重要です。また、社会の学習を通じ、現代社会や世界の歴史・文化についても興味関心を育んでください。さらに、理系の科目などについても積極的に学び、説明力や論理力を養うことも重要です。

【国際言語文化学部 国際日本文化学科】

〔入学者に求める能力〕

1. 自分を育てる力

〔期待する能力〕世界の諸国・地域や日本の文化・言語について学ぶ意欲があり、他者とのコミュニケーションや社会との関わりの中で、自己の人格を高めることに興味・関心があり、努力しようとしている。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート

2. 知識・理解力

〔期待する能力〕世界の諸国・地域や日本、およびその文化や言語について関心を持ち、高等学校卒業程度の教科書記載内容の知識を持っている。

〔選考方法〕調査書、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、資格検定、学力試験、レポート、面接

3. 言語力

〔期待する能力〕高等学校卒業程度の国語力を持ち、書き言葉、話し言葉の両面でコミュニケーション力に磨きをかけることに関心を持っている。

〔選考方法〕調査書、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、資格検定、学力試験、レポート、面接

4. 思考・解決力

〔期待する能力〕世界の諸国・地域や日本の文化・言語に関するさまざまな課題について関心があり、それらを解決・探求するための文献調査や情報検索の方法について、ある程度習得している。

〔選考方法〕調査書、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、資格検定、学力試験、レポート、面接

5. 共生・協働する力

〔期待する能力〕他者との基本的なコミュニケーション力があり、他者と共生・協働して、社会への貢献を行うことに関心がある。

〔選考方法〕調査書、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、レポート、面接

6. 創造・発信力

〔期待する能力〕世界や日本の文化・言語に関連して、ユニークな発想による企画や研究・制作を行い、社会に発信することに関心がある。

〔選考方法〕調査書、資格検定、学力試験、レポート、面接

〔入学までに求める学習経験〕

高等学校における外国語、国語、公民、地理歴史の必修科目の内容を確実に修得しておいてください。また情報、芸術関係の科目についても、強い関心のある人は、実習・鑑賞・実技などを通じて、知識や能力を高めておくことが望まれます。漢字検定2級、

日本語 検定3級など、国語に関する資格取得への取り組みも期待します。その他にも、各自が関心を持っている領域について学習し、英検などの外国語検定、京都・観光文化検定などの各種検定にも挑戦してください。

学部等名 現代人間学部

教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。
<https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html>）

（概要）

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高い女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。

現代人間学部は、人間やその生活、社会、自然に対する総合的な理解に基づく実践的な能力を身につけた人材を養成するため、学際的な学びを深め、専門知識の向上に相乗効果を発揮させた総合的な教育研究を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法： 大学 web サイトの以下のページにて公表している
<https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html>）

（概要）

【該当部分再掲】

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成 29 年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【全学部分】

DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。

DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけるとともに、それらを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。

DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力をひととおり身につけている。

DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。

DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。

DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。（専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。）

【現代人間学部 生活環境学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、人の生活を生活環境の側面からとらえ、よりよい暮らしの創造や地域社会の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 生活科学, 社会福祉学および関連領域に関する基礎知識, および衣食住, 家族・生活経営, 福祉に関する幅広い知識を身につけ, 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 暮らしにかかわる多様な課題を理解できる力を身につけている。
- DP3. 多様化, 複雑化する現代社会が抱える諸問題を一人ひとりの暮らしの視点から解決へと導くために, 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 相手の立場を考えながら, 場に応じたコミュニケーションができる力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して, 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 生活のあり方や生活における課題の本質を探り, より良い方向を見出す力を身につけ, 衣食住, 家族・生活経営, 福祉に関する専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
- DP5. 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び, 他者に共感でき, 多様な課題を抱える人に寄り添う態度を身につけ, 他者と協働しながら関わる支援者としての技術を身につけている。
- DP6. 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 地域における生活課題を解決するための情報収集ができ, 必要に応じて新たな価値の創造に取り組み, その成果を適切に発信する力を身につけている。

【現代人間学部 心理学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い, 社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 心理学およびその関連領域についての基礎知識, およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 多様化, 複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために, 日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して, 人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び, 病児・者, 障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り, 理解を深め, 協働することができる実践力を身につけている。
- DP6. 専門知識を基盤に, 自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み, 得られた分析結果から新たな価値を創造する力, および心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部 こども教育学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに, 教育者として, 職業的役割を自覚し, こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 教育や保育, およびその関連領域についての基礎知識, およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 教育や保育領域のグローバル化, また, 日本語を母国語としないこどもや家庭に対して, 日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 教育や保育に関するさまざまな課題に対して, 情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 教育や保育場面で関わる全ての人たちと, よりよいこどもの成長を支えるために,

共生・協働する力を身につけている。

DP6. 教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。

2021年度入学生の卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上を修得することとしている（履修規程第5条）。

【令和3年度以降入学者】

- 現代人間学部 生活環境学科
共通教育科目 24単位以上
学科横断プロジェクト型科目 0～6単位
専門教育科目 84単位以上
学際教育科目 0～16単位
- 現代人間学部 心理学科
共通教育科目 24単位以上
学科横断プロジェクト型科目 0～6単位
専門教育科目 84単位以上
学際教育科目 0～16単位
- 現代人間学部 こども教育学科
共通教育科目 24単位以上
学科横断プロジェクト型科目 0～6単位
専門教育科目 84単位以上
学際教育科目 0～16単位

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法： 大学 web サイトの以下のページにて公表している
<https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html>）

（概要）

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している6つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、講義・演習・実習等のどの方法で、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。<https://www.notredame.ac.jp/jukensei/admission/admissionpolicy/>、その他、入学試験ガイド、入学試験要項、学生便覧などに記載している。）

（概要）

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、全学及び各学部学科において入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定し、「ND6」に沿って入学者に期待する能力と選考方法、

入学までに求める学習経験について明記している。アドミッション・ポリシーの具体的な内容は、各学科で以下のとおり記述している。

【現代人間学部 生活環境学科】

[入学者に求める能力]

1. 自分を育てる力
〔期待する能力〕社会に貢献できるよう自分を高めたいと考え、自分の生活や人生を主体的に築いていく意欲をもっている人。
〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート
2. 知識・理解力
〔期待する能力〕入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や理解力を有するとともに、家族や個人の暮らしに必要な衣食住、家族・生活経営、福祉について、自ら積極的に学び知識を身につけたいと考えている人。
〔選考方法〕学力試験、レポート、調査書
3. 言語力
〔期待する能力〕学んだ知識や技術を用い、言語を介して積極的に他者とのかかわるということに関心がある人。
〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート
4. 思考・解決力
〔期待する能力〕身近な生活環境に関心を持ち、身につけた知識や技能を、生活をより良くするために役立てる力を養いたいと考えている人。
〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート
5. 共生・協働する力
〔期待する能力〕周りとは協力しながら、相手の立場に立って物事を考えようと努力し、行動したいと考えている人。
〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート
6. 創造・発信力
〔期待する能力〕より良い生活の創造に関わり、自分の考えを発信したいと考えている人。
〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート

[入学までに求める学習経験]

人間の生活に関する幅広い内容の教科・科目に関心を持って取り組んでおくことはもちろんですが、「総合的な学習の時間」や「学校家庭クラブ活動」、あるいはボランティアなどを含む課外活動は、人間や生活に関する問題・課題への興味・関心を高め、個性豊かな人間性の基礎となるものです。こうした実践的な活動体験は本学科での学びに大いに役立ちますので、なるべく多くの課外活動や実践的な活動の体験をするように努力してください。

【現代人間学部 心理学科】

[入学者に求める能力]

1. 自分を育てる力
〔期待する能力〕豊かな人間性、および、自己成長への意欲と他者の理解や奉仕の精神を備えている人。
〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書
2. 知識・理解力
〔期待する能力〕心理学およびその関連領域について知識や技能を習得し、科学的分析と深い人間理解に基づいて、現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力や産業界で活躍できる力を身につけたい人。
〔選考方法〕調査書、学力試験、レポート

3. 言語力

〔期待する能力〕さまざまな文化背景をもつ人々や社会に対して、純粋な関心と偏見なく理解する姿勢を持ち、母語や外国語によるコミュニケーションを通じた心の理解への意欲を持っている人。

〔選考方法〕調査書、資格検定、学力試験、レポート、面接

4. 思考・解決力

〔期待する能力〕人間の思考や行動、人間関係や社会構造に興味を持ち、心理学への学習意欲や問題探求心に優れ、様々な問題や事象について論理的に考え、解決策を追求することに熱意がある人。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、学力試験、レポート、調査書

5. 共生・協働する力

〔期待する能力〕人の個別性を理解・尊重し、ともに成長しともに生活する姿勢を備え、現代社会に生きる人々が抱える心理的諸問題の解決と支援に貢献したいと考える人。

〔選考方法〕自己記入書（志望理由書、自己アピール）、面接、調査書

6. 創造・発信力

〔期待する能力〕心理学の学びを通して、現代社会における諸問題について、新たな発想での気づきや提案をしていく意欲のある人。

〔選考方法〕面接、調査書、学力試験、レポート

[入学までに求める学習経験]

国語や英語の学習を通して、読む・書く・話す・聞くといった経験を積み、説明力やコミュニケーション力をつけることが必要です。そして、社会（地理歴史・公民）の学習を通して、現代社会や身の周りの出来事に関心と問題意識を持ち、課外活動などを通して、その解決方法を考えたり実行することが望まれます。また、基礎的な数学（数学Ⅰ）や理科での学びを通して、物事を客観的に捉える力も必要です。

【現代人間学部 こども教育学科】

[入学者に求める能力]

1. 自分を育てる力

〔期待する能力〕教育や保育に携わる人間として、関連する知識や技能を習得するのみならず、良好な人間関係を築き、また、築かせることのできる人。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書

2. 知識・理解力

〔期待する能力〕多くの学問や人間と関わり、積極的に他者を理解しようとする人。

〔選考方法〕学力試験、調査書、レポート

3. 言語力

〔期待する能力〕一人ひとりの言語力の相違に気付き、一人ひとりの個性に応じた対応をしようとする人。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書、レポート、資格検定、学力試験

4. 思考・解決力

〔期待する能力〕自分の考えだけでなく、人の考えを聞き、また深く考え、問題があっても解決しようとする力のある人。

〔選考方法〕面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、レポート、調査書、学力試験

5. 共生・協働する力

〔期待する能力〕学習活動に参加し、共生し協働しながら困難に立ち向かうことで

<p>何かを成し遂げようとする人。 [選考方法] 面接、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書</p> <p>6. 創造・発信力 [期待する能力] 様々な想像をし、意見を交換することで、更に想像力を発揮できる人。 [選考方法] 面接、レポート、自己記入書（志望理由書、自己アピール）、調査書 [入学までに求める学習経験]</p> <p>高校卒業時まで必要とされる基礎的な学力を身につけているとともに、こどもの健全な発達を支援できるように、保育や教育に関するさまざまな問題に興味・関心を持つことが期待されます。また、自分の考えや意図を相手に分かりやすく伝えたり、相手の意図を適切に理解できるよう、たくさんの人と関わる経験をするとともに、他者と協力しながら課題を見つけたり、問題解決するといった経験をしていることも期待されます。</p>
--

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_2021_02_1.pdf</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
国際言語文化学部	—	8人	10人	6人	人	人	24人
現代人間学部	—	20人	13人	5人	人	人	38人
教育センター		1人	2人				3人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		104人				104人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/detabase.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学は FD 委員会のもと FD に取り組んでいる。 2020 年度に実施した FD は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.学部生を対象とした授業評価アンケート 2.大学院生を対象とした教育評価アンケート 3.FD 研修会（年 2 回） 4.オープンクラス（年 2 回） <p>本学の FD についての年ごとの報告は、下記 Web ページにて『FD 報告書』として公表している。 https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/fd.html</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際言語文化 学部	130人	92人	70.8%	530人	535人	100.9%	英語英文学科 5人	2人
現代人間学部	240人	175人	72.9%	960人	768人	80.0%	人	人
心理学部	—	—	—	—	4人	—	—	—
合計	370人	267人	72.2%	1490人	1307人	87.7%	10人	2人

(備考) 心理学部(募集停止)は留年生のみ在籍している。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際言語文化 学部	100人 (100%)	6人 (6.0%)	70人 (70.0%)	24人 (24.0)
心理学部	10人 (100%)	3人 (30.0%)	3人 (30.0%)	4人 (40.0%)
生活福祉文化 学部	3人 (100%)	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)
現代人間学部	123人 (100%)	12人 (9.8%)	89人 (72.4%)	22人 (17.9%)
合計	236人 (100%)	21人 (8.9%)	163人 (69.1%)	52人 (22.0%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
 日本電産テクノモータ(株), (株)ファーストリテイリング, (株)星野リゾート, (株)京都銀行, 京都信用金庫, 京都府庁, 鳥取大学医学部附属病院, 京都市教育委員会 他
 京都ノートルダム女子大学大学院, 立命館大学大学院, 同志社大学大学院, 京都工芸繊維大学大学院 他
 (備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
国際言語文化 学部	109人 (100%)	84人 (77.1%)	9人 (8.3%)	17人 (15.6%)	0人 (0%)
現代人間学部	141人 (100%)	121人 (85.8%)	4人 (2.8%)	15人 (10.6%)	0人 (0%)
合計	250人 (100%)	205人 (82.0%)	13人 (5.2%)	32人 (12.8%)	0人 (0%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 【該当部分再掲】

本学では授業計画(シラバス)を全学部統一様式で作成し、インターネット等により公表している。スマートフォンでの閲覧にも対応し、学習支援システムとも連携させて、学生が科目選択時だけでなく授業準備学習等にも活用しやすいように改善を図っている。

シラバスは、例年概ね以下の過程を経て作成・公表している。

10月下旬 シラバス作成に関する説明会の開催

11月中旬 担当教員にシラバス入稿依頼

12月中旬 教務委員会におけるシラバスチェック基準の打ち合わせ

12月下旬～翌年1月末 シラバスチェック(指摘・修正の期間を含む。)

2月 シラバス修正・確認作業完了

3月中旬 インターネット上で公表

各担当教員のシラバス作成に際しては、「シラバスの入稿について」「本学の基本教育理念の組み立てについて」など作成のためのガイドとなる資料を配付するほか、授業改善の一環として説明会を開催し、シラバス作成の考え方や前年度からの変更点・留意点等への理解を深めることとしている。

入稿完了後には、教務委員会の委員(各学科等選出の教員、教育支援部長等の職員)により、当該科目の位置づけがカリキュラム・ポリシーに沿ったものであるか等について「シラバスチェック」を行う。

全学部統一様式によるシラバスには、授業科目に関する情報として①講義コード(コースナンバー)②科目名③ND6(ディプロマ・ポリシーに定める6つの力のうち当該科目に最も関連する力を記載。項目4参照)④授業以外に必要な標準学修時間⑤担当教員名⑥科目区分⑦配当学年⑧開講学期⑨単位⑩備考・前提科目⑪曜日講時を記載した上で、担当教員が記載する事項として、以下の項目を設けている(括弧内は記載にあたって留意を求めている点)。

・科目の教育目標【必須項目】

(ディプロマ・ポリシーとの関連がわかるよう、学生が到達すべき水準等を具体的に測定可能な行動等で記述)

・教育・学習の個別課題【必須項目】

(科目の教育目標に到達するために授業の中で取り上げる課題などを、授業終了後のイメージが具体的なものとなるように箇条書きで記述)

・ルーブリック【任意項目】

(受講している科目でどのような力が付くかを学生が理解し、主体的に考えて学ぶように方向づけるため、学生が目標に向かって積極的に取り組むことを後押しすることを重視)

・授業計画【必須項目】

(同内容が連続している場合や各回の具体的な内容が不確定である場合も、原則として異なるトピックや観点等を含めて各回の授業内容を記載。オムニバス形式等、複数教員担当の場合は各回の担当者名も記載)

・教育・学習の方法【必須項目】

(授業の実施方法(講義・演習・発表・ディスカッション・グループワーク等)、学習の方法(授業で意識すべきことなど)、授業で使用する教材などについて具体的に示し、試験・レポート等に対するフィードバックについても記載)

・準備学習の具体的な方法【必須項目】

(予習・復習の方法などを具体的に指示)

・準備学習に必要な標準時間数(合計)【必須項目】

(授業以外に必要な予習・復習等に要する時間の合計を標準時間数以内で記載)

・評価方法・評価基準【必須項目】

(教育目標を基に成績評価の基準を適切に設定し、その内容を具体的に明示)

- ・担当教員の実務経験
(担当科目の内容に関連した実務経験であることが読み取れるように記載)
- ・定期試験またはそれに替わるレポートの有無【必須項目】
- ・留意事項(受講条件等)
- ・テキスト/参考文献/参考URL

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【該当部分再掲】

授業科目の成績評価及び単位の授与については、学則(大学名省略。以下同じ。)及び履修規程等の規定に基づき、厳格かつ適正に行っている。

本学では「授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験の上、単位を与える」(学則第14条)ことを原則とし、試験は「定期試験及び定期試験以外の方法(授業時に行う平常試験、レポートその他第10条に定める評価方法)」(履修規程第15条)により行っている。

具体の成績評価の方法は「筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度等を基に行」(履修規程第10条第1項)い、100点満点で60点以上を合格とする(学則第14条)。成績評価の基準は下表のとおりである(履修規程第10条第3項・第4項)。

成績評点等	評価	評価(英語表記)
90点以上	秀	A
80点～89点	優	B
70点～79点	良	C
60点～69点	可	D
本学学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により、本学以外での学修を認定した授業科目	認	T
59点以下	不可	F
評価なし(試験欠席、出席時数不足等)	/	
本学学則第14条第2項ただし書きの規定により100点を満点とする評価が難しいものとして別に定める授業科目(合格の場合)	合格	P

これらの規定を踏まえ、個々の授業科目においては、シラバスに記載必須として「評価方法・評価基準」の項目を設け、当該授業科目の教育目標を基に適切に設定した基準を具体的に明示することとしている(上記1参照)。記載にあたっては、「総合的に評価する」などの記載は原則として不可とし、「定期試験(50%)、小テスト・レポート(30%)、授業参加度(20%)」のように明確化している。また、単に出席したことだけをもって評価する「出席点」は認めていない。

(卒業の認定に係る取組の概要)

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成29年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の6つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【全学部分】

- DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。
- DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養を身につけるとともに、それらを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力をひとつおりに身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。
- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。
- DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。(専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。)

【国際言語文化学部 英語英文学科】

- DP1. キリスト教精神に基づく共感能力と幅広い教養に支えられた女性としての自立心を備え、国際社会に貢献し、その発展に寄与できる力を身につけている。
- DP2. 英語圏の文学、文化、言語学、コミュニケーション学、英語教育学についての幅広い知識や、異文化理解能力を身につけており、それらを基に思考力、批判能力を涵養する素地を兼ね備えている。
- DP3. 様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。グローバル化社会で共生するための、異文化理解に基づいた社会的言語運用能力を身につけている。
- DP4. 現代社会、特に国際社会において直面する多種多様な情報問題、課題に対して、多角的かつ複眼的な思考に基づき、適切な情報選択、批判的分析、論理的かつ効果的な意思決定を行う力を身につけている。
- DP5. 価値観が交錯する国際社会で他文化の人々と協働するにあたり、ステレオタイプや偏見、自己文化中心主義といった自己傾向を理解し、これを克服して、多文化コミュニティ（共同体）形成に貢献できる力を身につけている。
- DP6. 英語圏を中心とする国際社会における文化、社会、言語、コミュニケーションについて、その背景にある仕組みや問題を洞察することができ、これを分析・解決するための専門知識と方法論を身につけている。また、分析・解決策を社会やコミュニティに対して貢献できる形で発信する力を身につけている。

【国際言語学部 国際日本文化学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を備え、自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
- DP2. 「日本語日本文化」「国際文化」の2領域にわたる基礎知識、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる技能を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題に人文学的観点から対応するための日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人文学分野の情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身につけている。
- DP5. 書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を土台に、さまざまな他者と共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 学習経験と専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み新たな価値を創造する能力、諸問題に対して適切に判断・対処する力を身につけている。

【現代人間学部 生活環境学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、人の生活を生活環境の側面からとらえ、よりよい暮らしの創造や地域社会の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 生活科学, 社会福祉学および関連領域に関する基礎知識, および衣食住, 家族・生活経営, 福祉に関する幅広い知識を身につけ, 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 暮らしにかかわる多様な課題を理解できる力を身につけている。
- DP3. 多様化, 複雑化する現代社会が抱える諸問題を一人ひとりの暮らしの視点から解決へと導くために, 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 相手の立場を考えながら, 場に応じたコミュニケーションができる力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して, 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 生活のあり方や生活における課題の本質を探り, より良い方向を見出す力を身につけ, 衣食住, 家族・生活経営, 福祉に関する専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
- DP5. 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び, 他者に共感でき, 多様な課題を抱える人に寄り添う態度を身につけ, 他者と協働しながら関わる支援者としての技術を身につけている。
- DP6. 人の生活を生活環境の側面からとらえ, 地域における生活課題を解決するための情報収集ができ, 必要に応じて新たな価値の創造に取り組み, その成果を適切に発信する力を身につけている。

【現代人間学部 心理学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い, 社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 心理学およびその関連領域についての基礎知識, およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 多様化, 複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために, 日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して, 人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び, 病児・者, 障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り, 理解を深め, 協働することができる実践力を身につけている。
- DP6. 専門知識を基盤に, 自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み, 得られた分析結果から新たな価値を創造する力, および心の諸課題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

【現代人間学部 こども教育学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに, 教育者として, 職業的役割を自覚し, こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 教育や保育, およびその関連領域についての基礎知識, およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 教育や保育領域のグローバル化, また, 日本語を母国語としないこどもや家庭に対して, 日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 教育や保育に関するさまざまな課題に対して, 情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 教育や保育場面で関わる全ての人たちと, よりよいこどもの成長を支えるために,

<p>共生・協働する力を身につけている。 DP6. 教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を見につけている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際言語文化学部	英語英文学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
	国際日本文化学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
現代人間学部	生活環境学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
	心理学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
	こども教育学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法 : 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/campuslife/campus/</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部	全学科	840,000 円	200,000 円	340,000 円	<p>※令和3年度入学生より改定、2~4年次は旧納入金を適用 その他の内訳 : 教育実習費 左記は第1年次の納入金額。 第2年次以降についても、入学金を除き、原則として同額とする。授業科目により、実習費等を徴収する場合があります。</p>

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりに対して学修や進路、学生生活全般の助言を行う担任制度を設けている。また、教員が決まった時間に修学相談に応じることができるオフィスアワーを設けている。支援を必要とする学生については、授業保障・情報保障を中心に修学支援を行う「キャンパスサポート」というしくみを設け、教員や部署との連携チームで支援している。学業に専念でき、安心して学生生活が送れるよう、入学料及び授業料減免制度や大学独自の奨学金制度を数多く設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 低年次からのPBL型科目、公務員・福祉業界等専門分野に特化した特別講座、就職・進学などの進路に関わらずライフキャリアを考えるためのガイダンス、就職活動で力を発揮するための実践講座など、4年間を通して、学生のキャリア発達に合わせた段階的・実践的なキャリア教育・キャリア支援を行っている。 また、履歴書の添削アドバイスや面接練習などを含むキャリアに関する個別面談では、対面形式・オンライン形式を併用し、学生が利用しやすい支援体制を整えている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 看護師の資格を持つ職員を配置し、日々の学生の健康管理や健康相談を受け付けている。健康診断時には心身の相談ブースを設け、早期発見、ケアに努めている。内科医・精神科医・婦人科医などによる健康相談も行っている。学生相談室では臨床心理士の資格を持った専門相談員が大学生活を送っていく上での悩みや不安などの相談に応じ、対人関係が不安な学生に対してグループワークも定期的に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学 Web サイトの以下のページにて公表している。 https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		114人	108人	222人
内 訳	第Ⅰ区分	60人	60人	
	第Ⅱ区分	24人	25人	
	第Ⅲ区分	30人	23人	
家計急変による支援対象者（年間）				1人
合計（年間）				223人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	2人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	人	人
計	2人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	23人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	23人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。